

ゴール型球技における「易しいゲーム」の教材開発 と効果に関する研究

—中学校第2学年の授業実践より—

教育実践高度化専攻 教科指導重点コース 造形・創造科学系（保健体育）

氏名（蜂須賀季鈴）

本研究では、競技ではない球技の教材として「易しいゲーム」に着目して、「誰でも運動の楽しさや喜びを味わえる保健体育科の授業創りたい」と考え、ゴール型球技における「易しいゲーム」の教材開発を行った。「易しいゲーム」の教材開発と実践を行うことにより、検討の余地は残るが、誰もが運動の楽しさや喜びを味わえる保健体育科の授業づくりを目指すことができたことと生徒の様子や全体のアンケート結果などから考える。なお、誰もが運動の楽しさや喜びを味わえるということは、本研究の「易しいゲーム」は「体育」の見方・考え方にとどまらず、「運動」や「球技」の見方・考え方への効果の範囲を広げ、豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力の育成につながる契機となった可能性があることと生徒の様子や全体のアンケート結果などから考える。常に生徒の学びが変化することに対応する「易しいゲーム」になるには、教師から提示した「易しいゲーム」を固定化せず、生徒と教師が授業の中でつくる「易しいゲーム」の開発が必要であると考え、今後の授業づくりの追究点としたい。